

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月13日
【四半期会計期間】	第28期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	オーウイル株式会社
【英訳名】	O' will Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 英器
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 栗野 恵介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 栗野 恵介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第1四半期連結 累計期間	第28期 第1四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	7,314,380	7,478,784	27,443,865
経常利益(千円)	152,847	115,227	393,347
四半期(当期)純利益(千円)	94,273	69,560	225,637
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	95,846	84,468	302,137
純資産額(千円)	1,480,923	1,624,424	1,634,452
総資産額(千円)	9,148,252	9,712,844	8,154,668
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	29.93	22.08	71.63
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	15.7	16.7	20.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済・金融政策への期待感から、円高の是正や株価上昇など、景気回復への明るい兆しが見え始めたものの、中国における経済成長の鈍化や円安による輸入価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品飲料業界におきましては、依然として緩やかなデフレ市況の中、消費回復への影響は未だ限定的であり、一方、原材料価格は上昇していることから、経営環境は厳しい状態が続いております。

このような状況下、当社グループは、「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安心かつ安定的な食品原料及び資材の供給を継続し、サービスの向上に努め、一方で、付加価値の高い新規商品の提案を積極的に行い、取扱品目の増加や取引先の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,478,784千円（前年同期比2.2%増）、営業利益は84,496千円（前年同期比38.8%減）、経常利益は115,227千円（前年同期比24.6%減）、四半期純利益は69,560千円（前年同期比26.2%減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

<卸売事業>

飲料市場においては、国内市場が飽和状態であることから企業再編やグローバル展開が加速し、企業間の競争は激化しております。このような状況下、当社グループは、取引先のニーズに応えるべく、国内外から原料資材の確保に努め、安定供給体制を維持する一方、取引先の拡大や利益率の改善に努めてまいりました。糖類の仕入単価が上昇したことに加えてビタミン類の販売単価下落により売上総利益は減少したものの、飲料メーカーの夏季向け商品の増産に伴い、ルイボス茶等の茶葉や果汁などの農産物及び同加工品の販売が好調に推移し、売上高は7,302,420千円（前年同期比1.9%増）となりました。

<製造販売事業>

安心で安全な商品をお客様にお届けするために、品質管理面の強化に注力する一方、NBブランドの強化を図るため、「やさしいあいすくりーむ」の拡販に努め、個食用のアイスが好調に推移いたしました。また、お客様のニーズに合わせたPB商品の開発を取引先と共同で行い、業務用アイスの販売数量が増加し、売上高は153,246千円（前年同期比0.1%増）となりました。

<その他>

その他においては、コンビニエンス事業を大手町地区に4店舗展開しております。そのうちの1店舗が24時間店舗ですが、店舗運営の効率化や経費削減に努めた結果、収益力が改善し、売上高は200,555千円（前年同期比8.6%増）となりました。

（注）セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,507,671千円増加し、8,650,347千円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金、商品及び製品、未収入金の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ50,505千円増加し、1,062,496千円となりました。主な要因は、無形固定資産の増加によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,558,176千円増加の9,712,844千円となりました。

負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,504,949千円増加し、7,396,501千円となりました。主な要因は、買掛金及び未払金の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ63,254千円増加し、691,918千円となりました。主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1,568,204千円増加し、8,088,420千円となりました。

純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ10,027千円減少し、1,624,424千円となりました。主な要因は配当金の支払による利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,150,000	3,150,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,150,000	3,150,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	3,150,000	-	363,387	-	288,387

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,149,000	31,490	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	3,150,000	-	-
総株主の議決権	-	31,490	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
オーウイル株	東京都港区北青山一丁目2番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,238,523	1,272,584
受取手形及び売掛金	¹ 4,226,392	¹ 5,387,020
商品及び製品	815,459	980,521
未着商品	517,893	463,329
原材料及び貯蔵品	14,916	16,874
未収入金	242,603	436,665
繰延税金資産	17,634	9,831
その他	74,003	90,718
貸倒引当金	4,750	7,200
流動資産合計	7,142,676	8,650,347
固定資産		
有形固定資産	324,907	324,253
無形固定資産	88,112	98,393
投資その他の資産	² 598,971	² 639,850
固定資産合計	1,011,991	1,062,496
資産合計	8,154,668	9,712,844
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,712,310	6,055,091
1年内返済予定の長期借入金	228,348	258,348
未払金	829,093	916,053
未払法人税等	23,991	44,703
賞与引当金	37,269	24,600
その他	60,539	97,705
流動負債合計	5,891,552	7,396,501
固定負債		
長期借入金	564,365	625,612
資産除去債務	5,012	5,033
その他	59,286	61,272
固定負債合計	628,663	691,918
負債合計	6,520,215	8,088,420

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	288,387	288,387
利益剰余金	940,079	915,143
自己株式	71	71
株主資本合計	1,591,782	1,566,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,875	35,385
繰延ヘッジ損益	7,066	15,375
為替換算調整勘定	5,727	6,815
その他の包括利益累計額合計	42,669	57,577
純資産合計	1,634,452	1,624,424
負債純資産合計	8,154,668	9,712,844

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	7,314,380	7,478,784
売上原価	6,688,486	6,866,390
売上総利益	625,894	612,393
販売費及び一般管理費	487,778	527,896
営業利益	138,115	84,496
営業外収益		
受取利息	-	50
受取配当金	1,294	1,414
為替差益	14,522	27,003
受取手数料	1,657	1,657
受取補償金	1,082	1,655
貸倒引当金戻入額	850	-
保険解約返戻金	-	3,200
その他	1,540	731
営業外収益合計	20,947	35,712
営業外費用		
支払利息	2,876	3,040
支払補償費	3,099	1,807
その他	238	134
営業外費用合計	6,214	4,982
経常利益	152,847	115,227
特別利益		
固定資産売却益	3,133	-
特別利益合計	3,133	-
税金等調整前四半期純利益	155,981	115,227
法人税、住民税及び事業税	38,706	42,859
法人税等調整額	15,801	2,807
法人税等合計	54,508	45,666
少数株主損益調整前四半期純利益	101,472	69,560
少数株主利益	7,199	-
四半期純利益	94,273	69,560

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	101,472	69,560
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	3,498	5,509
繰延ヘッジ損益	2,810	8,309
為替換算調整勘定	682	1,088
その他の包括利益合計	5,626	14,907
四半期包括利益	95,846	84,468
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	88,647	84,468
少数株主に係る四半期包括利益	7,199	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	34,049千円	40,879千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
投資その他の資産	9,900千円	9,900千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	10,362千円	9,952千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	94,497	30	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	94,495	30	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,091,740	37,939	7,129,679	184,700	7,314,380	-	7,314,380
セグメント間の内部 売上高又は振替高	72,522	115,173	187,695	-	187,695	187,695	-
計	7,164,263	153,112	7,317,375	184,700	7,502,075	187,695	7,314,380
セグメント利益又はセ グメント損失()	125,937	18,338	144,276	6,408	137,868	247	138,115

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額247千円は、セグメント間取引消去247千円であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,230,539	47,688	7,278,228	200,555	7,478,784	-	7,478,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	71,881	105,557	177,438	-	177,438	177,438	-
計	7,302,420	153,246	7,455,666	200,555	7,656,222	177,438	7,478,784
セグメント利益	71,824	11,556	83,381	1,006	84,387	109	84,496

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額109千円は、セグメント間取引消去109千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	29円93銭	22円8銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	94,273	69,560
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	94,273	69,560
普通株式の期中平均株式数(株)	3,149,918	3,149,864

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月13日

オーウイル株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齊藤 文男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋田 英明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーウイル株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーウイル株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。